

レジデントのための画像診断の鉄則

山下康行【著】

評者

柴田綾子

淀川キリスト教病院産婦人科

「画像検査を学ぶ本だ」という予想をはるかに超えていた。救急室や外来で出合う疾患の特徴的な画像が次々と登場し、経験知が詰まったクリニカルパールがテンポよく紹介された本であった。画像診断は「知っていれば診断できる」ことが多い。逆に言うと、知らなければ見過ごしてしまう所見がたくさんある。この本は、あなたの「診断できる」を確実に増やしてくれる1冊である。

この本がすごいのは、画像診断の「周辺」までクリニカルパールでカバーしているところだ。第1章「画像診断総論」で取り上げられている以下などは、普段なら難しくて読み飛ばしてしまいそうな内容だが、簡潔なメッセージ（鉄則）とまとめて読みやすくなっている。

- ・画像診断を行う前に（そもそも画像検査が必要なのか？ 事前確率は？）
- ・画像検査の基礎（CT/MRIの仕組みや設定、オーダーのしかたは？）
- ・画像検査の選びかた（PETやシンチグラフィが必要なきは？）

各章は臓器別になっており「これは知っておくと役立つ！」情報が、写真とともに解説されている。知っていれば一発で診断できる snap shot diagnosis も盛りだくさんだ。通読しなくても、夜寝る前にランダムにページを開いてパラパラ目を通すだけで勉強になる。

ほ～！と思った鉄則を3つ紹介すると

- ・胸部 鉄則6：呼吸苦のあるすりガラス影を見たら、急性好酸球性肺炎、過敏性肺臓炎、薬剤性肺障害、びまん性肺炎を考える
- ・頭頸部 鉄則9：甲状腺腫瘍の良悪性の鑑別は画像に頼らない
- ・心血管 鉄則9：若年者で、大動脈とその分岐の壁肥厚、狭窄を見た場合は高安動脈炎を考える

など読影だけにとどまらず、画像検査の限界や鑑別診断の挙げ方を学ぶことができる。

この本を読めば、画像検査の読影力だけでなく「臨床現場で画像検査を上手く使いこなす力」がアップする。産婦人科医として



は、妊娠中の CT 検査（放射線被曝）についての解説や、子宮や卵巣腫瘍の MRI 画像の解説がとてもわかりやすく、感動した。

200 個のクリニカルパールと snap shot diagnosis の写真で、明日からのあなたの「知っている」を増やしませんか？

B5 判・頁 240

2019 年 4 月

定価：本体 3,800 円＋税

[ISBN978-4-260-03821-8]

医学書院刊